

「人間健康都市科学」を創成

医学と工学のアプローチ融合

歴史を振り返っても、「都市」というものは商工業の中心地として繁栄し、ピラミッド型人口分布を保った人口増加に依存して発展してきました。しかし、わが国が直面している人口減少に伴う未曾有の少子高齢社会により、地方都市では中心市街地の空洞化や医療

崩壊といわれる現象が進んでいます。また一方では、地球温暖化に伴う環境の変化、地震・洪水などの自然災害に加えてパンデミックなど未だかつて経験したことのないような複合的諸問題が生じ、それらに対して新しい観点から対策を練る必要に迫られています。

人材育成へ社会人含め医工融合教育



左から小森工学研究科長、谷口ユニット長、光山医学研究科長

そのような諸問題に対処し、人々が生き生きと安心して暮らしていける社会を構築していくためには、住むまちそのものを工学的観点に加え医学・生理学的アプローチを融合させた新しい観点から考え直していかなければならない時代となりました。

教育プログラム「安寧の都市ユニット」は、そのような都市のあるべき姿を確立し、それを実践できる人材を育成し、人間健康科学と都市系工学を融合した「人間健康都市科学」を創成することを目指しています。

医学研究科および工学研究科共同でここ数年準備を進めてきたプロジェクトが、平成22年度特別経費概算要求「特別研究経費（教育改革）―高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実」として採択され、この4月より5カ年をかけて実施されることになりました。

このユニットに、今年新たに工学研究科に4名、人間健康科学系専攻

教育プログラム「安寧の都市ユニット」

副ユニット長 人間健康科学系専攻教授 野本 慎一

に2名の教員が採用されました。医学研究科拠点人間健康科学系専攻の杉浦地域医療研究センター内に設置しました。

このユニットは主に地域社会の防災ポテンシャルを向上させ、災害時医療体制整備支援技術などの教育・研究を行う「クライシスマネジメント部門」と、環境・景観計画や健康都市計画、および交通計画など実践的な教育・研究を行う「アーバンアミニティ部門」の2部門からなります。カリキュラムとしては、基礎エッセンスの集中教育、融合研究と実践的な演習に加え、徹底したフィールド重視の問題発見型「臨地教育」と、創造型「デザイン教育」（地域プロジェクト提案）を特徴としています。

則的に10月開始ですが、来年度からは4月開講になります。

なお、受講料は無料です。10月9日に時計台百周年記念ホールで行われる開設記念シンポジウムはどなたでも参加できます。セミナー日程、募集要項等の詳細は <http://www.uic.kyoto-u.ac.jp/> をご覧ください。



第169号

発行所
社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
<http://www.shirankai.or.jp>

主 な 内 容

- ② 退任あいさつ
 - ③ 校友会・KMS・FUNDだより
 - ④ 新任あいさつ
 - ⑤ 支部だより 香川・大阪・三重・岐阜
 - ⑥ 支部だより 福井
- 芝蘭会総会・理事会・評議員会
人事異動・会員計報



開会挨拶を行う中村病院長



岡野教授による特別講演

岡野慶大教授が特別講演

第2回京大病院iPS細胞・再生医学研究会

7月23日（金）に、第2回京大病院iPS細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。

同研究会は、当院におけるiPS細胞、ES細胞及び体性幹細胞等を用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図

り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として昨年11月に設置したものです。第2回目となる今回の研究会では、学

内外から130名余りの参加がありました。

研究会では、中村孝志病院長の開会挨拶の後、中島秀典主席研究員（アステラス製薬株式会社分子医学研究所）より「iPS細胞研究による創薬のイノベーション」について、高橋淳准教授（再生医学研究所・iPS細胞研究所）より「iPS細胞研究」より「パーキンソン病に対するiP

最後に、伊藤壽一教授（京大病院耳鼻咽喉科）より開会挨拶が行われ、閉会となりました。

芝蘭会では、平成20年度から、新公益法人制度への移行に伴い、機関設

S細胞移植治療法の開発」について、平家俊男教授（京大病院小児科）より、「多能性幹細胞を用いた骨格筋細胞/心筋細胞の作成およびその臨床応用に向けた取り組み」について、鈴木茂彦教授（京大病院形成外科）より「形成外科における皮膚再生プロジェクト―過去、現在、未来―について一般講演が行われました。

新公益法人制度に伴う芝蘭会

「一般社団法人」に移行

6月の総会などで了承

計、会計制度等について、3年にわたって検討を行ってまいりました。その間、理事会・評議員会では5回、総会において3回にわたり審議を行い、一般社団法人と公益社団法人のメリット・デメリットの検討、会計制度等について、3年にわたって検討を行ってまいりました。その間、理事会・評議員会では5回、総会において3回にわたり審議を行い、一般社団法人と公益社団法人のメリット・デメリットの検討、

が、了承されました。今後の予定は次の通り。

▼平成22年10月・11月 代議員選挙実施

▼平成23年1月 京都府総務部政策法務課へ一般社団法人移行認可申請書を提出

一般社団法人 芝蘭会定款概要

平成22年6月26日（土）

開催の総会・理事会・評議員会において承認された定款の概要は、次の通り。

（1）法人の目的に「会員相互の親睦を図り、会員の協力のもとに」という文言と「並びに国民の健康と福祉の向上」という文言を挿入したこと（第4条）。

（2）正会員になることのできる資格を、具体的に明記する（6項目）とともに、会費に関しては、

会費の額等会費に関する事項を別の規則で定めることとしたこと（第6条第2項）。

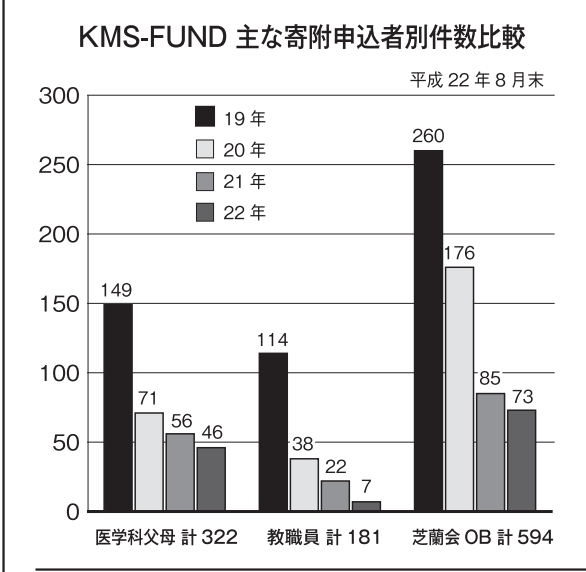
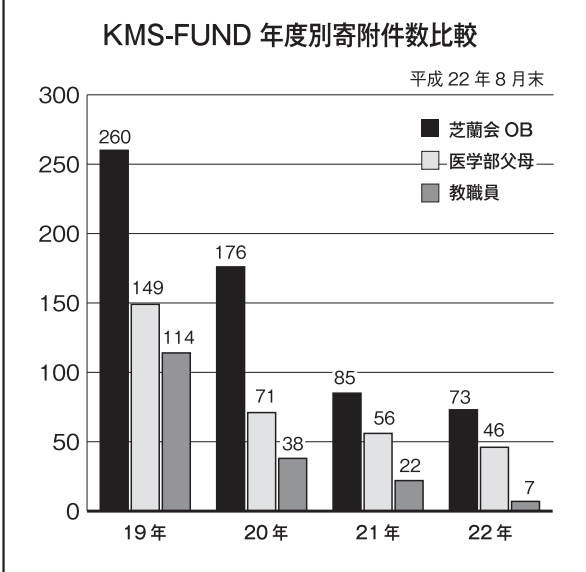
（3）新しく制定された一般社団法人及び一般財団法人に関する法律では、総会の成立要件が会員の過半数としているため、現状では、総会を開催することができないので、代議員制を導入することとし、その規定を定めたこと（第6条第5項から第13項）。

代議員の数は、会員総数約5500名の2%の110名としたこと。代議員選出の選挙を行うこと。

（4）理事、評議員の任期は、従前は3年だったのを2年に、監事の任期は3年であったのを4年としたこと（第25条第1項、第2項）。

（5）会長、副会長は、総会ではなく、理事会において理事の中から選任することとしたこと（第22条）。

詳しくは、HPをご覧ください。 <http://www.shirankai.or.jp/what/organization/index.html>



平成22年8月末

医学部は今回の医学部学生会館の建築に京都大学より8000万円を借入しました。今後、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は設立以来、医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)はこ

今後ともご支援を

医学部は今回の医学部学生会館の建築に京都大学より8000万円を借入しました。今後、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は設立以来、医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)はこ

医学部は今回の医学部学生会館の建築に京都大学より8000万円を借入しました。今後、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は設立以来、医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)はこ

京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は京都大学医学部の学生と院生の教育及び研究支援を目的として2007年3月に発足しました。以来、芝蘭会会員、医学部学生の関係者で構成される京都大学医学部校友会の会員、教職員、その他京都大学医学部支援者などの皆さまのご支援のもと、その活動は4年目に入りまし

間に、医学部学生会館が姿を現してきました。医学部学生会館の建設に關しまして、老朽化が甚だしく耐震面のみならず衛生面など多くの問題を抱える学生厚生施設に代わる医学部学生会館の建設は、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)へのご厚意を京都大学医学部の教育や学生の学習活

動、クラブ活動支援に生かすべく、一日も早く実現したいものでした。着工の時期については、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)への皆さまの寄附で十分な資金が集まった後の着工も検討しましたが、耐震面など多くの不安を解消し、学生生活の安全と充実を最優先して医学部学生会館の建設に着手することにな

さなければなりません。医学部校友会の皆さま、芝蘭会会員、教職員などの皆さまは、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)の目的を完遂するために、今後ともご理解とご支援を賜り、ご寄附のほどよろしくをお願いします。

医学部は今回の医学部学生会館の建築に京都大学より8000万円を借入しました。今後、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は設立以来、医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)はこ

京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は京都大学医学部の学生と院生の教育及び研究支援を目的として2007年3月に発足しました。以来、芝蘭会会員、医学部学生の関係者で構成される京都大学医学部校友会の会員、教職員、その他京都大学医学部支援者などの皆さまのご支援のもと、その活動は4年目に入りまし

間に、医学部学生会館が姿を現してきました。医学部学生会館の建設に關しまして、老朽化が甚だしく耐震面のみならず衛生面など多くの問題を抱える学生厚生施設に代わる医学部学生会館の建設は、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)へのご厚意を京都大学医学部の教育や学生の学習活

動、クラブ活動支援に生かすべく、一日も早く実現したいものでした。着工の時期については、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)への皆さまの寄附で十分な資金が集まった後の着工も検討しましたが、耐震面など多くの不安を解消し、学生生活の安全と充実を最優先して医学部学生会館の建設に着手することにな

さなければなりません。医学部校友会の皆さま、芝蘭会会員、教職員などの皆さまは、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)の目的を完遂するために、今後ともご理解とご支援を賜り、ご寄附のほどよろしくをお願いします。

医学部は今回の医学部学生会館の建築に京都大学より8000万円を借入しました。今後、京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)は設立以来、医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)はこ

京都大学医学部校友会・教育研究支援基金(KMS-FUND)だより

事務局
〒606-8302
京都市左京区
吉田牛ノ宮町 11-1
芝蘭会館別館
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.med.kyoto-u.ac.jp

学生

学生

学生

学生

退任あいさつ

平田

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

退任あいさつ

平田

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

退任あいさつ

平田

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

京都大学の教育のさらなる発展を願って

研究発表2件と特別講演



福井支部総会記念撮影

【福井】平成22年7月31日（土）、ユアーズホテルフクイにて平成22年度芝蘭会福井支部総会が開催されました。

支部長である福井赤十字病院院長の野口先生のご挨拶から会は始まり、新入会員の紹介と議事が順次進められました。議事では平成20年度事業報告・決算報告・監査報告および平成21年度事業計画案・予算案・役員変更等について議論がなされ

新公益法人移行や事業計画など承認

芝蘭会 総会・理事会・評議員会

平成22年6月26日（土）芝蘭会館別館に於いて芝蘭会理事会・評議員会および総会が開催された。議案は、（1）平成21年度事業報告（案）及び収支計算書（案）並びに財産目録について、（2）平成22年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、（3）理事、監事、評議員の選任について、（4）新公益法人制度への移行についての4件

先生が「ノルエビネフリン・トランスポーターをイメージングする分子イメージングプローブの開発」という演題でそれぞれご講演されました。木口先生のご講演は、単孔式腹腔鏡下手術（SUS）と四孔式の比較・小浜病院で実施されているSUSのデメリットを克服する工夫が主題で、現在一般に行われているSUSでは、道具同士の干渉やSUSポートが高額であることなどが難点となつていますが、小浜病院では「腹腔鏡Ⅱ気腹法」という概念を捨て「吊り上げ法」で行うことにより、それらの難点を緩和できるようにしたことでした。清野先生のご講演は、ノルエビネフリン・トランスポーター（NET）に対して高い親和性と選択性を持つプローブを開発する過程が主題で、GS-IPBMはZETの発現に相關する集積を見せ、腫瘍を明瞭

に対応するか」などの問題について参加者の意見を求められ、聴衆参加型でご講演は進み、その後の質疑も非常に活発に行われました。

講演終了後には会場を移して懇親会が行われました。懇親会中には、先生方の自己紹介や近況報告が行われ、特に福井赤十字病院や小浜病院などに多くの研修医が来るようになったということなど明るい話題が続きまし

人事異動

発令年月日	氏 名	異動内容
H22.7.1	羽賀 博典	採用 北海道大学病院准教授より基礎病態学発生病態学教授へ
H22.7.1	古川 壽亮	採用 名古屋市立大学教授より健康要因学健康増進・行動学教授へ
H22.7.1	高折 晃史	昇任 内科学血液・腫瘍内科学講師より同教授へ
H22.7.1	武地 一	昇任 病院助教より内科学加齢医学講師へ
H22.7.31	久保 肇	辞職 外科学消化管外科科学講師より田辺三菱製薬メディカル・ディレクターへ

また、監事については、日合弘氏の再任が承認された。評議員については、田中守氏、柴田史郎氏、野口正人氏、横田通夫氏、山本剛史氏、小西裕氏、藤原久義氏、木村徹氏、山本泰朗氏、延吉正清氏、大城清氏、吉田修氏、遠見公雄氏、瀬戸山元一氏の再任、竹本勇氏、榎正幸氏、隠岐尚吾氏、杉山知行氏、田港朝彦氏、矢野謙二氏、廣瀬邦彦氏、京都大学ウ

最後にになりましたが、このような貴重な会に参加する機会を頂けたことに感謝の意をもって、支部会の報告を終わらせていただきます。（文責…3回生 前田峻宏）

また、監事については、日合弘氏の再任が承認された。評議員については、田中守氏、柴田史郎氏、野口正人氏、横田通夫氏、山本剛史氏、小西裕氏、藤原久義氏、木村徹氏、山本泰朗氏、延吉正清氏、大城清氏、吉田修氏、遠見公雄氏、瀬戸山元一氏の再任、竹本勇氏、榎正幸氏、隠岐尚吾氏、杉山知行氏、田港朝彦氏、矢野謙二氏、廣瀬邦彦氏、京都大学ウ



芝蘭会総会

また、監事については、日合弘氏の再任が承認された。評議員については、田中守氏、柴田史郎氏、野口正人氏、横田通夫氏、山本剛史氏、小西裕氏、藤原久義氏、木村徹氏、山本泰朗氏、延吉正清氏、大城清氏、吉田修氏、遠見公雄氏、瀬戸山元一氏の再任、竹本勇氏、榎正幸氏、隠岐尚吾氏、杉山知行氏、田港朝彦氏、矢野謙二氏、廣瀬邦彦氏、京都大学ウ

会 員 計 報

（敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

折田 二男 (昭和7年卒)	平成21年12月31日	ご逝去	大野 猛 (昭和23年卒)	平成21年7月11日	ご逝去	田中 敬正 (昭和29年卒)	平成22年3月26日	ご逝去
佐々木武也 (昭和13年卒)	平成22年4月1日	ご逝去	奥井 嘉治 (昭和23年卒)	平成21年12月2日	ご逝去	松村 宗剛 (昭和31年卒)	平成22年5月2日	ご逝去
金井 奨 (昭和16年3月卒)	平成21年12月27日	ご逝去	中村 正男 (昭和23年卒)	平成21年11月28日	ご逝去	辻川 輝明 (昭和32年卒)	平成22年6月9日	ご逝去
石村 義夫 (昭和16年12月卒)	平成21年2月20日	ご逝去	仁平 寛巳 (昭和23年卒)	平成21年8月3日	ご逝去	澤西 謙次 (昭和33年卒)	平成22年2月16日	ご逝去
桶本 洋 (昭和17年卒)	平成22年4月10日	ご逝去	河村健次郎 (昭和23年卒)	平成22年4月17日	ご逝去	門矢 静夫 (昭和33年卒)	平成20年12月10日	ご逝去
金森 熙隆 (昭和17年卒)	平成21年7月7日	ご逝去	小林敬一郎 (昭和23年卒)	平成22年7月9日	ご逝去	内山 卓 (昭和45年卒)	平成22年7月7日	ご逝去
野原 正雄 (昭和17年卒)	平成20年9月14日	ご逝去	高橋 正典 (昭和23年卒)	平成13年12月23日	ご逝去	河野真一郎 (昭和50年卒)	平成21年11月12日	ご逝去
伊藤 友喜 (昭和18年卒)	平成22年7月18日	ご逝去	滝沢 亮 (昭和24年卒)	平成22年1月28日	ご逝去	井上 邦夫 (教室会員 薬理学)	平成17年8月31日	ご逝去
古沢 春二 (昭和18年卒)	平成21年11月17日	ご逝去	高橋 照彦 (昭和24年卒)	平成22年3月9日	ご逝去	田添 浩一 (教室会員 衛生学)	平成19年7月21日	ご逝去
粟津 敏郎 (昭和18年卒)	ご逝去		森 学隆 (昭和24年卒)	平成20年12月11日	ご逝去	織田 実男 (教室会員 公衆衛生)	平成22年5月28日	ご逝去
関口 守義 (昭和19年卒)	平成19年3月	ご逝去	吉田 敏郎 (昭和24年卒)	平成22年1月17日	ご逝去	玉井 秀男 (教室会員 内科3)	ご逝去	
吉田 敏郎 (昭和19年卒)	平成22年1月17日	ご逝去	藤江 隆夫 (昭和25年卒)	平成22年5月4日	ご逝去	高田 嘉幸 (教室会員 産婦人科)	平成7年9月	ご逝去
大日方弘明 (昭和20年卒)	平成21年11月18日	ご逝去	柴垣 進 (昭和25年卒)	平成21年12月	ご逝去	本永 益彦 (教室会員 産婦人科)	平成22年7月23日	ご逝去
長沢 直幸 (昭和20年卒)	平成22年2月18日	ご逝去	豊田 博 (昭和26年卒)	平成21年6月	ご逝去	三田 喜雄 (教室会員 産婦人科)	平成14年12月26日	ご逝去
小笠原一男 (昭和21年卒)	平成21年12月27日	ご逝去	芳村 勝夫 (昭和26年卒)	平成21年10月14日	ご逝去	白井 伸子 (教室会員 小児科)	平成22年6月15日	ご逝去
範 新皓 (昭和21年卒)	平成4年11月2日	ご逝去	岡 弘信 (昭和26年卒)	平成22年6月7日	ご逝去	緒方 毅 (教室会員 小児科)	平成21年7月6日	ご逝去
前田 豊治 (昭和21年卒)	平成21年9月18日	ご逝去	上野 一也 (昭和27年卒)	平成22年8月17日	ご逝去	松田 篤次 (教室会員 小児科)	平成22年5月13日	ご逝去
都田 治 (昭和21年卒)	平成22年9月1日	ご逝去	竹林 稔 (昭和27年卒)	平成22年7月31日	ご逝去	相馬 隆臣 (教室会員 泌尿器科)	平成22年2月15日	ご逝去
高島 寛一 (昭和21年卒)	平成21年12月14日	ご逝去	森福 清 (昭和27年卒)	平成22年1月13日	ご逝去	町塚 道夫 (教室会員 耳鼻科)	平成21年10月25日	ご逝去
平川 公義 (昭和22年卒)	平成22年7月13日	ご逝去	堀田 鉄也 (昭和27年卒)	平成19年5月31日	ご逝去	日下 芳郎 (教室会員 胸部研)	平成11年11月15日	ご逝去
藤本 安男 (昭和22年卒)	平成22年4月	ご逝去	田中 康雄 (昭和28年卒)	平成22年4月17日	ご逝去			
鈴木 謙次 (昭和22年卒)	平成22年1月26日	ご逝去	吉田 泰三 (昭和28年卒)	平成21年12月13日	ご逝去			

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）

芝蘭会報編集委員会 委員長 中尾一和 委員 斎藤信雄、岩田征良、豊國伸哉、山田圭介、園部 誠、阿部 恵 顧問 中尾一和 部 員 尾市雄輝、亀井純（以上6回生） 植木一仁、武井玲生仁、水野裕基、福永有伸、畑玲央（以上5回生） 合田直樹、福田宗寛、勝島将夫（以上4回生） 橋本健太郎、中村有輝、山田直生、畑野翔太郎、前田峻宏、宗宮伸弥、柳井谷駿史（以上3回生） 真辺諒（1回生） 芝蘭会事務局 事務局長 山田 均 総務課長 秋山和美 管理課長 松本 惇